

令和4年度六戸町総合教育会議議事録

期 日 令和4年10月31日（月）午前10時00分

場 所 六戸町立図書館会議室

案件議事 六戸町総合教育会議運営要綱等について
六戸町教育大綱について
令和5年度教育大綱の具現について
六戸町立義務教育学校について

開会時刻 午前10時00分

閉会時刻 午前11時30分

出席者の氏名

町 長 吉田 豊
教育委員 吉田尚子、山本晃広、下田 勝、保土沢まり
校長会会長 山内亮悦（六戸小学校）
総務課長 館 泰之

説明のために出席した者の氏名

教育長 瀧口孝之
教育課長 長谷 智
指導室長 ニツ森牧彦
課長補佐 佐々木頼行、佐々木和仁

会 議 録

町長あいさつ

(町長)

令和4年度の総合教育会議を開催させていただきたいと思います。

まず、先の令和4年第4回六戸町議会定例会において、保土沢教育委員が町議会で任命同意をいただき、令和4年9月12日に教育委員会委員として再任され、このたび就任していただきました。

任期は、令和8年9月12日までの4年間でございますが、義務教育学校の新設に係る重要な期間と、とらえておりますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思います。

さて総合教育会議は、平成27年度に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正があり、町長と教育委員が教育行政についての協議・調整をするための合議体として設けられたもので、今年で8年目を迎えているところであります。

教育を取り巻く環境は、日々して変化しており、様々な課題がございます。新型コロナウイルス感染症防止をはじめ、ICT教育やGIGA(ギガ)スクール構想への対応、35人学級への移行の課題が教育関係に山積(さんせき)している状況であります。

本日は、総合教育会議の運営方法と教育大綱及び具現の確認、六戸町立義務教育学校の進捗状況についての議題となりますが、この総合教育会議を通して、私(町長)と教育委員会が共通認識を持ち、様々な課題に対応したいと思っておりますので、引き続きよろしくお願ひ申し上げたいと思います。

委員の皆様には、気が付いた点など自由に活発なご意見をお願ひ申し上げ、あいさつとします。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

議 事

六戸町総合教育会議運営要綱等について

(教育課長説明 改正内容)

(質疑なし)

六戸町教育大綱について

(教育長説明 変更事項なし)

(質疑なし)

令和5年度教育大綱の具現について

(教育長説明 変更内容)

(質疑なし)

(教育長説明 学力状況調査・いじめ不登校)

全国学力・学習状況調査の六戸町における状況はお配りしております資料のとおりです。

続いて次ページになります。いじめと不登校についてです。一番上に表がありますがけれども、一番上がいじめとなっており、平成30年度から令和4年度までのものを掲載しております。連日の新聞をご覧になったかと思いますが、不登校が2020年に比べて2021年の不登校が全国で25%増、24万人に達したという見出しで新聞に掲載されておりました。県内に目を向けてみても、不登校の子は小中高で2093名、10年で最下だということでした。これを含めていきたいと思ひます。

いじめは平成30年は多かったです。いじめの定義を見直し、調査が厳格化した年でもあり、数値が上がったものでもありました。令和元年からは同じような数字となっており、令和4年は7月までであり、少し数字が少なく見えますが、これからトータルすると同じくらいの数字になると思われます。

重大事態が平成30年に当町で発生しております。当事者及び当該校が〇〇小学校でした。重大事態とは、いじめにより生命、心身または財産に重大な被害が生じた疑いがあると認められる場合のことを指し、具体的には自殺であったり、身体に重大な障害を負う、金品等に

重大な被害、それから精神性の疾患を発症した場合、それに加え、いじめにより相当の期間、30日間以上の欠席などが挙げられます。相当な期間調査や聞き取りを行いました。結果としては、いじめはあったものの欠席の因果関係は分からないというものでした。そういったものがありました。これからは二度とそういったことが起こらないように、日頃から校長会においても呼び掛けて申しておりました。

不登校についても同じような数字が載っております。なかなかゼロになりきっていないのが現状です。全国的、県でも増加傾向にある。中でも六戸町だけゼロ、というのは難しいですが。下の適応指導教室、メイプルルームですけれども今年度も3人通ってきています。私もここに来て、私にはなかなか理解しづらい世界があるんですね。どう対応したらいいか指導員と共に対応を考えております。

ただ、メイプルルームは一定の成果が出ていると思います。学校に通えなかった中学生が高校へ進学を達成する姿も見られるようになりました。今、小学生が〇人、中学生が〇人通ってきており、彼らにとって心の拠り所になっていると思います。学校でもさまざまな努力をいただいておりますが、最後の砦というか、このメイプルルームがあることにより、彼らの居場所が確保できていると認知しています。今後も対応していかなければならない問題だと思います。以上、簡単ではありますが、説明といたします。

質疑応答

(町長)

学力の話がありましたが、六戸の特徴なのかなと思っています。小学校は優秀であっても中学それから高校受験となると、そうでもない。六戸は何十年も前からこの傾向にあると思っています。中学校と小学校が一緒になる予定ですから、今後、人とのつながりが広がることから逆に子ども達にとって良い影響となるかもしれません。刺激を受けて相対的なものとしていくかもしれません。不登校やいじめは、線引きが難しいので私自身もわからない部分もあります。学校も含め、関係者の皆さんも苦慮されていらっしゃると思います。いじめや不登校の件数も減少傾向になってほしいと思います。上北郡が他と比べて低い。これも昔から言われていることです。旧三市とありましたが、これは若干、教育に対する概念が、子どもだけではなく親御さんの意識も関係しているのかもしれない。

ここからは質疑となります。よろしくお願いします。

(山本委員)

一点確認します。中学校〇年生の英語が低い。英語のテストの内容がわからないのですが、ヒアリングや会話は得点の要素はあるのですか。

(指導室長)

筆記だけではなく、CDを聞いてそれに対して答える内容になっています。

(山本委員)

市部の学力が高い。これは先ほど町長も言ったように、教育環境ですよ。都市部だとかなり塾が多いですよ。中二や中三だとそうだと思うんですけども。市部は塾に気軽に行けるような環境、郡部は遠いもしくははない。これに対し、どうでしょう。

(指導室長)

具体的な調査はしていないのですが確かに十和田市や三沢市は塾に通っている子どもさんは多いです。

(町長)

根拠はないのですが、昔、なぜ首都圏や都市部は、というコメントがありました。都市部の子ども達は日常学校に通っている間に好奇心や物を高める刺激がある。ただ、地方にいるとなかなかない。何だろう、という感覚が市街地に住んでいる人と比べて薄い、ということが出てくるのではないかと思います。みんな個人差はありますけれども。塾に行くか行かないかというのはもちろんあるとは思いますが、ただ、塾に行きどうするかという意識を保護者含

め、子ども達がどうしたいのか、意欲というなら、田舎に住んでいるなら、義務教育と違いますから気持ちがあるなら行動を起こすと思います。やはり、意欲を高める環境を作っていくかざるを得ないといけないのかなと。

(指導室長)

結局、学校の勉強だけではなく、家庭での学習も非常に大きいです。学校での学習時間と土日を含めた長期休暇を含めると年間の半分くらいは休みの日なんです。ですので、今年度は教育長の計画訪問では、家庭学習を大切にしましょうという話をしています。学校の時間だけではなく、家庭の時間もしっかりとやっていきましょうと。あと、学力向上推進委員会の中で、家庭学習をこうやるといいですよと推進したり、いろいろ学校教育の中で宿題などを各校さんで取り組んでおります。それ以外となりますと、保護者や子どもの意識になります。

(山内委員)

この家庭学習は、秋田県東成瀬村の取り組みで私が来るずっと前からやっています。十和田市の学校などを回ってきましたが、家庭学習で何をやったらいいか子ども達は苦しんでいます。例えば6年生だったらプラス10分の70分やるとか時間を決めるのですが、中身がない。家庭学習の仕方とか、友達のノートを見て回る「ぐるぐるノート」と言っていますが、それを1月上旬から取り組んでいます。こういうのはつながっていると感じています。十和田市は確かに塾に行っている子どもは多いと思います。ただ、学校での取り組みはかなりがんばっていると思います。

(山本委員)

勉強の意識付けを保護者含めて。

(町長)

ただ、進めることは容易じゃないと思いますので、環境含めて、親御さんにも。

(山本委員)

全体の中でも六戸、上北郡、青森県の位置づけというのは保護者も認識しておくべきだと思います。背景は何か、というのも含めて、共通意識を持たないと。

六戸町立義務教育学校について

(町長)

次に、6番目の「六戸町立義務学校校名について」説明願います。

(教育課長)

まず、アンケート専門部会開校準備委員会、教育委員会のほうでいろいろ話し合った中で、学校設置者であります町長から決定していただいたものが緑の枠で囲んである学校名になります。町長から改めて発表していただきたいと思います。

(町長)

皆さんからご検討いただき、アンケートの結果等も踏まえ、いろいろ準備していただきまして感謝申し上げます。いろいろユニークな名前、または間接的な客観的な意味合いを持つ名前が出ていますが、私共は義務教育学校ということを考えまして、「六戸町立義務教育学校六戸学園」とすることが一番皆さんに分かりやすいイメージの校名ではないかと思えます。あまり取り繕ったり、デコレーションした名前は一見きらびやかに見えますが、私はもっと実質的なものでなくてはいけないと考えます。これからはもっとシビアな時代に変わっていくと思います。

(教育課長)

ありがとうございました。

では、次に資料7をご覧ください。これまでも皆様にお示ししてきましたが、六戸高校の現地とか地質の状況とか確認したうえで、タイトルの通り、「コンパクトで機能的な学校」というコンセプトに基づいて配置を考えました。詳細の説明は省略しますが、大きな特長は学

校敷地内に町立図書館を閉設します。子ども達が本を読む環境が間近にあるというものが大きな特長になります。さらに、学校を一つに再編しますので、900弱という人数を想定した校舎及び広さ、体育館を含めた配置を考えました。教室は補助対象となる最大の面積、8m×8.5mをとっております。これでも40人が入ると狭いと思いますが、これ以上の大ききになると補助対象外となってしまうので、ぎりぎりの間取りで考えております。

もう一つ、ICTルームというものを設置します。ICTルームは、壁全体を映写でき、WEB会議などを等身大で行える未来の学校、というものがあるんですが、それを参考に、これからの子ども達にICTの環境を整えた場所で学んでいただきたいということで作りました。資料7の説明は以上ですが、A3の大きいものがイメージで用意しました。奥のほうはゴルフ場です。手前は運動公園につながる道路で、更地になっているところは六高会館です。右側のほうには野球場がそのまま使えるように整備していきたいと思っています。駐車場も大きな特長になるはずで、台数的にもかなり大きくとりました。資料7の説明は以上です。

付け加えまして、今日は部材もご説明いたします。町長の前に置いているのは床材です。色はこれから決めます。真ん中のコンクリートのようなものは基礎部分等の体力壁材になります。木目調に色をつけます。これは今までご説明してきたLVLです。後ろには外壁の素材ですが、色はこれから決めます。触っていただくとわかりますが、ざらざらしています。塗装しなくても30年もつといわれています。イメージはグレーを出したつもりです。

(山本委員)

屋根は。

(教育課長)

屋根は全て無落雪で、ビニールシートを張ります。やはり雪が落ちる場所がないので、無落雪という形をとりました。

(佐々木頼行教育課長補佐)

登頂部分はアスファルトルーフィングです。

(教育課長)

雨漏りするような複雑な構造をとっていないので、メンテナンスをすれば大丈夫だと思います。体育館を除く校舎及び図書館は全て木造です。体育館は鉄骨造りです。内側は木造を少し入れますが、基本的な造りは鉄骨造りです。体育館はバスケットコート1面に、バレーコートをとれる広さになります。全施設エアコン込みの空調です。

(町長)

色とかは後で皆さんから意見を聞いて。明るい色がいいと思いますけれども。私共としては、将来の六戸町が果たすべき義務教育を提供するための一本化というものがあります。総合的な見方によっては、長いスパンで見れば、コンパクトで財政的に。将来はもっと人数が減ると思います。人間も減りますし、児童生徒も減ります。またそれに従っている先生や関係者の方もこだわりが強い。これだけ世の中が変化しているのに、それに合わせる意識というか概念がものすごく古い。その場所にいる分にはいいと思いますが、私共は変えていくときには柔軟に対応できるように環境を、子ども達だけではなく先生方にも与えなければならぬ。それを今までのような概念をかなぐり捨てるような先生になっていただきたい。実際に教育に携わる方々、スタートですので、しっかりとした概念、どういう風にやっていくか一歩先を考えて動いてほしい。

(教育課長)

最後、資料8のご説明をしたいと思います。金額の話なので、あくまでも今、積算したもので、この先資材の高騰や円安は先が不透明で見えないのですが、来年度の当初予算に向けて概算ということで事業費を算出しました。まず①の六戸高校の解体工事、来年実施したいと考えます、5億5000万円。当初は2億5000万円程度と思いましたが、アスベスト等いろいろ入っている関係と資材が上がっているとのことでした。②学校と体育館の建築工事にな

りますが、70億円という積算になっております。③町立図書館の建築工事は4億5000万円。これは林野庁より半分の補助をいただけるということです。④外構整備工事、これは3億円ということで、駐車場やグラウンドの整備等を行います。⑤は学校備品ということで、86型の電子黒板、今あるものの最大の大きさのものです。さらに学校が新しくなりますので、子ども達や先生の机やイスを全部更新したいと考えています。一人一台端末の関係もあり、机も広がっていますので、新しい規格のものを整備したいと考えています。⑥は付随する工事監理業務で1億5000万円。裏にまいます。概算事業費の総額は、85億5000万円です。これは六戸が始まって以来の大工事になると思います。例年の町の一般会計の予算が60億円ぐらいです。これを2か年に分けます。

最初、町長が冒頭で言われましたが、ほとんどの財源は起債になる訳ですが、当年度に負担がかからないように、国庫支出金や県支出金、交付税といった有利なものを選択した結果、基金の残高で収まる計算となっております。7億円程度になるかと思われま。財源比率は見てのとおりです。国等で25%、地方債65%、基金8%ということで。交付税のつく起債を選択している状況ですので、これまでと違う事業に組み立てているという感じです。事業費の説明は以上です。

(教育長)

このような形で進めるということでご理解いただければと思います。前回、教育委員会定例会で懸案事項が出された制服についてですが、教育委員会として意見のまとめをどうするかということで、ご提案をさせていただいたところですが、この場で皆様からご意見をいただいてもよろしいでしょうか。

(了承する声あり)

(吉田委員)

現在の制服を変えるということですか。

(教育長)

その意見も含めてお願いします。

(山本委員)

結論から言って制服「あり」で。7、8、9を制服で。やはり中学校の私服というのは課題がいろいろ出てくると思う。学校の指導もありますし。それに新しい学校という目新しさもある。それにふさわしい良い機会ではないかと思えます。デザインも含めて、価格は安いかなと同程度のものを上限で。できれば上下を統一したものがいいと思えます。

(下田委員)

私も、7、8、9が制服で。学校が新しく変わりますけれども、それだと今まで通りのようですが、一番スムーズに行くんじゃないかと考えます。

(保土沢委員)

私も当初は新しい学校と、冬ということも考えて、制服なしもありなのかなと思いましたが、制服として統一したほうがいいのかと思います。制服は、上下で。

(教育長)

あの方も「7、8、9」で「制服あり」で「上下」で、ということでよろしいでしょうか。

町長いかがでしょうか。

(町長)

私は将来において、制服は要らないと思えます。服装で小学生と中学生の線引きをするのもいかがなものかと思えます。ただ、親御さんも学校に対してこだわりが強い方が結構いらっしゃる。経費という面で考えると金額は同じくらいだと思うんです。学生服もなぜ今も続いているのか不思議に思えます。監督しやすいとか言いますが、指導する側から言って、監督するための制服はいかがなものかと思えます。ただ、やりやすいということ確かにその通り。私は変わった段階では、一気に全部変えるのではなく、今せっかく制服があるのだから、

それから PTA や生徒の皆さんで話し合っ決めていけばいいのかと思います。意見によっては小学校から制服、とかあるかもしれないし。制服いらんんじゃないかという意見もあるかもしれないし。

(山本委員)

他の県では9年間全部制服という学校があるんですよ。

(教育長)

開校準備委員会の PTA 部会で機能しているところですが、教育委員会総合教育会議の意見として、部会へ申し述べたいと思います。最終的には町長がまとめてくださったような形になりましたが、制服の件はこれで終わります。

(町長)

そのほかご意見はありませんか。

(教育課長)

以上をもちまして六戸町総合教育会議を終了します。